

## 編集後記

本年度の最終号を予定どおり刊行出来ました。

巻頭の橋本論文は、本誌一七四号所収の標題論説の続編です。附論の「船生津留島」の所在地の検討とともに、歴史研究の方法を提示されて、読者の襟を正してくれます。三重野論文は昨年刊行の『鶴見町誌』執筆の際研究を進められたもので、内容の一部を本会の近・現代史研究会で発表しています。甲斐論文は『玖珠町史』編さん事業の副産物と解されますが、本誌に投稿されるのを編集子は喜んでいました。研究ノートは、西南戦争の戦場跡を考古学的な調査によって記録化するため、に会を結成し、その成果を発表されています。三ツ股氏の紹介する史料は寛保三年焼失した府内城再築に関するものです。

本研究会は大分市の中安遺跡保存問題に重大な関心を払ってきましたが、保存運動の先頭に立たれていた本県考古学界の重鎮賀川光夫先生のご逝去を報告し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。